

■中井源左衛門 近江の豪商。売薬から米に転じ、店を展開して長者となり、子孫への戒め「金持商人一枚起請文」。
なかいげんざえもん
徳川吉宗將軍1716 = 近江の日野で、船奉行として仕えた佐々木源氏が織田信長に滅ぼされて塗椀業者となった家に生まれる。

・・・・・・・・1725 = 9歳：

家運が衰え、取引先も倒産するなどして、家屋敷が人手に渡るに至り、

日野椀の絵付け仕事に雇われて職人暮らしを続けていたが、
享保大飢饉・1732 = 16歳：

・・・・・・・・1734 = 18歳：家や地所を回復すべく、母の実家から2兩分の売薬を借受け、日野商人に連れられて関東へ行商に出る。
_以後、休み無く歩き続けて、

・・・・・・・・1743 = 27歳：

徳川吉宗隠居1745 = 29歳：_ようやく下野の越堀町に小さな店を持ち、

義経千本桜・1747 = 31歳：郷里に家を建てて、結婚しながら、_蓄財に努めて、

・・・・・・・・1749 = 33歳：*775両にまで増やす。奥州街道の城下町大田原に拠点を持つと、薬のほか木綿も扱うようになり、

徳川吉宗没・1751 = 35歳：
・・・・・・・・1752 = 36歳：

上野の小泉や結城の白河などに枝店を設け、

大岡忠光没・1760 = 44歳：
・・・・・・・・1761 = 45歳：

・・・・・・・・1769 = 53歳：*仙台・丹後・伏見に出店した頃には、長者番付の片隅に名前が載るようになった。
・・・・・・・・1770 = 54歳：

田沼意次老中1772 = 56歳：

源内獄中死・1779 = 63歳：
_奥州の生糸を大量に丹後の機業地へ売り捌くべく、株式会社に当たる"組合商内"を実行、出資者をつのり、
_仙台店と丹後店・伏見店の間で、生糸以外にも幅広い商品を扱って大商いをするようになる。

やがて丹後店・伏見店を閉じて、京都に大型店を開くとともに、金融業も営み、大名貸しまで手を広げ、仙台店には長男を、京都店には三男を支配人として配しながら、勤勉に働き続け、

田沼意次失脚1786 = 70歳：
・・・・・・・・1788 = 72歳：

ラクスマン来日・1792 = 76歳：*この年から、法然の一枚起請文に因んで、毎年「金持商人一枚起請文」を綴って、子孫への戒めとする。入港したロシア船工カチェリーナ号の絵図は、到着から1ヶ月後に入手。手紙にはロシアの使節や通訳の名も記され、商売に影響する高度な情報を迅速に収集していたことを示している。

松平定信引退1793 = 77歳：
ブーティ来航・1796 = 80歳：8万7250両、
昌平覺始・1797 = 81歳：
いざノ来航・1804 = 88歳：_11万5000両を超える資産を築いて、
青洲麻醉手術1805 = 89歳：_没した。
2代目以降も、瀬田の唐橋の付替え費用を全て負担したり、神社や公共事業に多額の寄付をしている。

邦永史郎「豪商物語」、